

1. 日時 令和〇年〇月〇日（月）2限
2. 対象 普通科1年1・2組 音楽選択者 36名
3. 題材名 言葉の響きからビートを引き出す [全8時]
4. 題材設定の理由

サンプリングを中心としたヒップホップ発祥の作曲手法は今日一般的なものとなっており、その起源であるヒップホップ音楽（ラップ音楽）ではもちろんのこと、ヒットチャートを賑わすようなポップスにおいても広く用いられている。既存の楽曲を文脈から切り離し再構成するというヒップホップ的手法の独特な創造性はミュージシャンの間では共有されていると言えよう。その一方、本来は本格的な音楽機器が手に入らない環境の中から誕生し、誰でもアクセスし易い手法であったはずのヒップホップ的創造活動の意義が、日本において広く理解されているとは言い難い状況にある。

生徒にとって身近なスマホ、iPhoneにプリセットされている作曲アプリである”GarageBand”は多重録音機能や編集機能を有しており、後述するヒップホップ的手法も感覚的に利用することができる。近年賑わいを見せている、自主制作系の音楽にも度々用いられている点にも注目したい。

以上の理由から、GarageBandの諸機能を利用してリズム創作を行うことによって、生徒の創作意欲を刺激するとともに、自分たちに身近な音楽の構造についても興味を喚起することができると考え、本題材を取り入れた。なお創作活動の導入としては、本来はリズム・アンサンブルの導入として用いられることの多い《野菜の気持ち》を取り上げた。本題材においてはこの作品の意義を正にヒップホップ的に読み替え、言葉の響きの面白さに注目するきっかけとして用いている。

5. 題材の目標、学習指導要領との関わり

高等学校学習指導要領 芸術科（音楽） 科目「音楽Ⅰ」 内容 A表現 (3)創作 ア、イ、ウ(ア)(イ)
[共通事項] (1) ア

A 表現 (3) 創作

- ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫すること
- イ 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
- ウ (ア)反復，変化，対照などの手法を活用して音楽をつくる技能
(イ)音楽を形づくっている要素の働きを変化させ，変奏や編曲をする技能

[共通事項] (1)

- ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したものと感受したことの関わりについて考えること。

- (1) 今日の自主制作音楽の盛り上がりには本格的な音楽を制作できるアプリが身近になったことが関係していることを認識し、GarageBandを利用した多重録音や音楽編集の技術に身につける。
(知識及び技能)
- (2) 言葉や歌詞の意味ではなく、その響き自体がもつ音楽的な面白さ（リズム、音色等）に注目して楽曲制作を行い、創意工夫を通じて音楽的な想像力を養う。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 様々なヒップホップ的手法の方法論と意義について学び、それらがもたらす音楽的価値の多様性についての理解を深め、日常の音楽聴取体験を深める。（学びに向かう力、人間性等）

6. 教材 《PPAP》作曲：ピコ太郎

《野菜の気持ち》作曲：古谷哲也

使用機材 iPad または iPhone の作曲アプリ GarageBand

- 取り組み内容 ①アプリの多重録音機能を利用して《PPAP》、《野菜の気持ち》の音源を作成する。
②アプリの編集機能を利用して自分たちの選んだ言葉を音楽作品として構成する。

7. 教材観

《PPAP》は言わずもがなの世界的大ヒット曲であり、ピコ太郎のキャラクターや歌詞のインパクトが注目された一方で、そのトラックには『名器』と呼ばれる電子楽器が用いられていたことから一部のミュージシャンによって楽曲そのもののクオリティが賞賛された。曲中に用いられた電子楽器の音色のほとんどは GarageBand 内に収録されているので、このアプリに対する導入としては生徒の周知度に加えて再現度の面でも最適な教材であると考えられる。

《野菜の気持ち》は声によるリズム・アンサンブル曲としてしばしば教育に用いられる楽曲である。本題材においては本来のリズム・アンサンブルとしての意義を追求するのではなく、次の2つの理由から楽曲の一部を用いている。

①言葉・歌詞の意味内容ではなく、言葉自体の響きの面白さに注目する。

「キャベツ」「ポンカン」など言葉のリズムや響きの面白さをを用いている点は、生徒たちがこのリズム・アンサンブル曲に取り組む動機付けとなる要素である。本題材においては、生徒が自分たちで言葉を選んで創作するにあたって、この言葉のリズムや響きの面白さに注目するきっかけとなるよう、本作品を導入に用いている。最近の J-POP では、言葉の響きを優先した楽曲が増えていることについてもふれる。

②部分ごとに音源作成に用いる手法を変えて取り組むことで、創作に向けて編集機能を学習する。

冒頭8小節はパート毎に多重録音を行う。次の8小節ではパートを楽譜通りに演奏するのではなく、単語をサンプリングし、編集して楽譜を再現させる。このように段階を経て編集機能にふれることで、創作において用いるチョップ&フリップを中心とした編集作業への導入としている。

GarageBand は画面をタッチするだけで、ゲーム感覚でリズムを刻むことができる。多重録音やチョップ&フリップ等の編集作業も直感的に行うことができるため、1つの言葉から多様なリズムを引き出した作品を作り出すのに最適なアプリである。その他、創作のアイデア源となるような楽曲を適宜授業中に紹介する（例：Daft Punk 《One More Time》、どんぐりず《マインド魂》、嵐《A day in our life》等）。

8. 生徒観

省略

9. 指導観

GarageBand を使用する際には、作業を円滑に行うためには細々とした点で注意しなければならないことが多い。《PPAP》や《野菜の気持ち》を用いて段階的に GarageBand に取り組むことで、技術を少しずつ身に付けてもらいたいと考えている。録音作業や編集作業には根気強さと細かい部分に対する注意が必要なので、感覚的に進められる部分と、きっちりと正確にやらなければいけない部分のメリハリをしっかりと意識させるよう指導する。

グループ毎の創作活動になるため、どうしても端末の所持者が作業の中心とならざるを得ない。特に創作活動においては、アイデアシート、ワークシートを利用してグループ全体で取り組むことができるように促す必要がある。

10. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 GarageBand を利用した楽曲制作方法を理解している。 ヒップホップ的な作曲法とその創造性について理解している。</p> <p>技 GarageBand で多重録音や音楽編集する技能を身につけている。</p>	<p>言葉の響きのもつ音楽的な要素（リズム、音色）を知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、それらのもたらす効果からどのように音楽を構成するかについて表現意図を持っている。</p>	<p>言葉の響きのもつ音楽的な要素とそれらが編集されることによってもたらされる様々な効果について関心を持ち、創意工夫を楽しみながら主体的・協働的に創作活動に取り組もうとしている。</p>

11. 題材の指導と評価の計画（全8時）

時	主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価	□指導者の ICT 活用 ◆生徒の ICT 活用
1	・打ち込みで楽曲を再現 ピコ太郎《PPAP》を作曲アプリを使って打ち込む。	○タブレットの貸し出し、打ち込みマニュアルを配付。	□作業デモンストレーションの提示 ◆作曲アプリの多重録音機能を使い楽曲を再現する。
2	・作曲アプリによる音楽制作 NHK 総合テレビ特番『ワンルーム☆ミュージック』を視聴する。	○音楽制作に加えて、発表する場が世界に開かれていることにもふれる。	◆スマホ内の作曲アプリを使用して本格的な楽曲制作を行うことができる。
3	・《野菜の気持ち》①多重録音	○録音のセッティングについて注意。 ○メンバーで作業を分担して行うよう、声かけ。	□作業デモンストレーションの提示 ◆多重録音機能を使用し1パートずつ録音する。
4	・《野菜の気持ち》②サンプリング	○サンプリングの起源と現在の広がりについてふれる。	□作業デモンストレーションの提示 ◆サンプリングした音源の編集。
5 ～ 7	・グループ創作①～③ チョップ&フリップについて学ぶ。自分たちで決めた言葉を使用し、8小節のオリジナルトラックを作成する。	○ヒップホップ的手法のもつ独自の創造性についてふれる。 ○言葉の響きのもつ面白さに注目させる。 ☆アイデアシート (思・判・表、主)	□参考音源、作業デモンストレーションの提示 ◆作曲アプリ上でのチョップ&フリップを始めとする編集作業や、様々な音響効果の処理を行う。
8	・発表 作成した音源を発表する。お互いに鑑賞し、ループリックを用いて評価、感想を記述する。クラウドを通じて作品を提出。	○ヒップホップ的手法のもたらす音楽的価値の多様性にもふれる。 ☆音源提出 (知・技) 鑑賞シート提出 (思・判・表、主)	□提出された音源データをディスプレイを使用し視覚的にも提示する。 ◆音源データの提出。

1 2. 本時の展開

(1) 本時の目標 (第5時)

- ・チョップ&フリップとその効果を知覚し、ヒップホップ的手法の独自性を理解することができる。
- ・創作に用いる言葉の響きの特性と楽曲コンセプトについてグループで協議し決定することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・言葉の響きのもつ音楽的な要素 (リズム、音色) を知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、それらのもたらす効果からどのように音楽を構成するかについて表現意図を持っている。(思・判・表)
- ・言葉の響きのもつ音楽的な要素とそれらが編集されることによってもたらされる様々な効果について関心を持ち、創意工夫を楽しみながら主体的・協働的に創作活動に取り組もうとしている。(主)

(3) 本時の学習過程 2限 (9:40~10:25) 場所: 第1音楽室

時間	学習内容	生徒の学習活動	・指導上の留意点 ○評価の観点・評価方法
導入 5分	①出欠確認 これまでの流れの復習		
展開① 15分	②チョップ&フリップについて、Daft Punk 《One More Time》と Eddie Johns 《More spell on you》を聴き比べ、続けてサンプリング例を視聴する。	《More spell on you》のどの部分がサンプリングされているか、予想する。	・原曲が切り取られ、並び替えられて新しい文脈に置かれていることに注目させ、そこにこそヒップホップ独自の創造性があることにふれる。
展開② 20分	③チョップ&フリップのやり方を確認 ④グループに分かれて、自作曲の創作に取り組む。	グループに分かれてそれぞれが選んだ言葉と、その言葉の響きの特性を協議し、アイデアシートに記入する。 楽曲のコンセプトを決め、アイデアシートに記入する。	・全3回の活動で、8小節のトラックを作成することを伝える。 ・アイデアシートをグループ代表に配付する。 ・必要のあるグループには iPad の貸し出しを行う。
	⑤自分たちの選んだ言葉をサンプリングし、創作に取り掛かる。	ワークシートのタイムラインを利用しながら、サンプリングした言葉をもとに編集作業に入る。	・サンプリングや編集をする際の注意点を伝える。 ○観察 (思・判・表、主)
まとめ 5分	⑥次回以降に向けて、エフェクトのかけ方を学ぶ。	作成したトラックを保存する。	・机間指導し、問題のあるグループを支援する。 ・残りの5分間で、必ず4パートのサンプリングを行うよう、声かける。 ・エフェクトをかける際の注意点到にふれる。

「観点別学習状況の評価」の判断基準の設定

評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる
<p>言葉の響きのもつ音楽的な要素（リズム、音色）を知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、それらのもたらす効果からどのように音楽を構成するかについて表現意図を持っている。（思・判・表）</p>	<p>自分たちが選んだ4つの言葉それぞれについて響きの特性・効果を十分に検討している。それらとの関連を考慮して「楽曲のテーマ、コンセプト」を決定している。</p>	<p>自分たちが選んだ4つの言葉それぞれについて響きの特性・効果を検討している。「楽曲のテーマ、コンセプト」を決定している。</p>
<p>言葉の響きのもつ音楽的な要素とそれらが編集されることによってもたらされる様々な効果について関心を持ち、創意工夫を楽しみながら主体的・協働的に創作活動に取り組もうとしている。（主）</p>	<p>アイデアシートの各項目についてのグループの議論にしっかりと参加し、色々なアイデアを積極的に提示している。</p>	<p>アイデアシートの各項目についての議論に参加している。</p>



C 努力を要する (支援の手立て)
<p>選んだ言葉の特徴的なリズムや子音等について言及する。くり返しによってリズムを作るための支援をする。</p>
<p>個別に声かけを行い、議論に参加するよう支援する。</p>